
議 事 要 旨

議 題：第 5 回 エキサイトよこはま 22 懇談会
開催日時：平成 26 年 5 月 9 日(金) 17:00~19:00
場 所：UR 横浜アイランドタワー 10F 大会議室

1. 開会

2. 横浜市あいさつ

3. 議題 「エキサイトよこはま 22」これまでの経緯と今後の取組について

○事務局より説明

○東日本旅客鉄道株式会社より説明【(仮称)横浜駅西口駅ビル計画について】

4. 意見交換

○副市長

盛りだくさんの内容になったと思います。これから、議論に入りたいと思いますので、ご自由に、忌憚のないご意見をいただければと思います。

○倉知委員

鶴屋地区街づくり協議会の倉知です。まず、17 ページの西口のまちづくりというところで、西口駅前広場ときた西口駅前広場という括りを示していただき、本当にありがとうございます。是非きた西口、西口駅前広場も一緒にさらにいい駅前広場になるように取り組んでいただきたいと思います。質問は、平成 26 年度に検討会が立ち上がるということですが、この検討会に関しては、西口駅前広場を中心にした検討会なのか、きた西口駅前広場も一緒に考えていただけるのか、別々に検討会が立ち上がるのか、ご回答ください。もし、きた西口駅前広場は別にしろ、具体化し検討会が立ち上がるに際しては、是非、鶴屋地区まちづくり協議会も、一緒に参加させていただきたいということも付け加えさせてください。それから、きた西口駅前広場のまちづくりということで、先ほどご説明にありました鶴屋橋の架け替え工事が進んでいます。鶴屋橋の架け替え工事ときた西口駅前広場の開発は一体のものだと地元は考えておりますので、検討会を立ち上げるにあたっては、鶴屋橋の歩道が今 5m の幅ですが更に広げられないか、あるいは川の蓋かけが出来ないか、ということをこの検討会で取り上げて議論していただけると、とてもありがたいので、付け加えさせていただきます。せっかく鶴屋橋の歩道が 5m に広がったのに、それに繋がるきた西口の駅前が 2m しか歩道がないなんてことはないと思うのですが、現状かなり狭い道路の中で、大変な数の方が、多分不便をかかっていると思いますから、それも是非お願いいたし

ます。昨年度も申し上げたのですが、是非、県、国とご検討いただいて、蓋かけで少しでも駅前広場が広がるように、これからは是非議論していただきたいと思っています。それから、鶴屋橋架け替え工事の日程なのですが、6 ページで今年の 12 月から車両の通行止め、仮設栈橋の使用開始だと思うのですが、ご存知のように鶴屋町は 12 月が 1 年で一番人が多く大変な数の方が通る時に、いきなり車両が止まって、歩道が仮設となると、混乱を来たすし、多分危険な部分があると思いますから、出来れば、1 月から車両通行止めと仮設栈橋の開始をしていただきたいと思いますので、これも要望として付け加えさせてください。最後に、100 年に 1 回の鶴屋橋の架け替え工事ですから、どういうデザインの橋になるかというところがこれからだと思えますから、シンボリックな素晴らしい橋を作っていただきたいと思えますし、橋のたもとで待ち合わせようとか、横浜に行ったら 1 回あの橋を見ようかというような、素晴らしい橋を造っていただきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○副市長

ありがとうございます。4 点程質問をいただきましたので、事務局で答えてください。

○事務局

都市整備局の担当の前中でございます。まず 1 点目ですが、西口駅前広場の検討会は、基本的には西口駅前ときた西口駅前広場は、交通機能としては一体的に考えていかななくてはいけないので、今後、検討会の立ち上げについては、その構成も含めて、一体的に考えていますので、是非ご参加いただきたいと思っております。それから、駅前広場の拡充は、鶴屋橋と一体的に整備、検討していく中で、蓋かけが出来るかは別として、駅前広場、西口駅ビルが出来る段階と、それと将来に向かってどうやるということは、検討会の中でも議論していきたいと思っております。それから、鶴屋橋の工期は今後関係者の方々に対して、具体的な工事の内容を示す中で、県警さんとの協議もありますが、着手時期については、また別途地元の皆様と検討していきたいと考えております。橋のデザインについては、今年度、橋梁の詳細設計の中で、橋のデザイン検討は設けており、デザイン性のある橋を造っていききたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

○倉知委員

地元も一体どんな橋が出来るのだと、とても期待をしているところもありますから、是非よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

○副市長

どうもありがとうございました。

○滝澤委員

23 ページで (仮称) 横浜西口元気プロジェクトとして触れられていますけども、現在、地域の商店会の皆様方と一緒に、イベントの開催ということをやりながら、まちの賑わいを演出しようと進めております。しかしながら、西口のイベントは、なかなか開催できる場所が限られます。もしくは小さかったりするので、地域内のストリートと

か、公開空地、河川の上空などの使用がもう少し柔軟に出来るように、行政の方々にご協力いただき、地域の皆様と一緒に、様々なイベントが実施できるように考えております。是非ご協力をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○副市長

ありがとうございます。

○事務局

東口と西口のご紹介をしていますけども、一昨年度発足したエリアマネジメント協議会と連携しながらやっていければいいと思っておりますので、是非ご協力をよろしくお願いいたします。

○滝澤委員

知恵をお互い出し合いながら、工夫をして、いいイベントを積極的に進めていきたいと思っておりますので、今後とも是非よろしくお願いいたします。

○副市長

ありがとうございます。

○澤委員

神奈川区青木第二連合の澤でございます。只今、倉知さんからもお話がございましたけれども、いよいよ計画も実施の段階に入ってきて、第一段階で鶴屋町地区がだいぶ開発されるということで、私ども地元としては、今回の駐車場棟の中に毎回申し上げているのですが、交番の設置をお願いしたいということなのです。私どもの地元で、防犯パトロールをやっておりまして、これが非常に抑止力になるという警察の評価をいただいておりますので、こういう開発がされますと、また人の出入り、来街者が非常に多くなると思います。治安上の問題もありますので、是非交番の設置を、くどういのですが、お願いしたいと思います。これは県の関係でしょうから、市としてはなかなか即答というわけにはいかないのしょうけれども、いよいよ建物の設計段階に入りますと、こういった施設を造れるか造れないか、そういった検討も是非お願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○副市長

ありがとうございます。事務局お願いします。

○事務局

交番の要望は、以前から承っております。神奈川区役所とも連携して、引き続き県警にはご要望を伝えていきたいと思っております。

○齋藤委員

高島自治会の齋藤と申します。20 ページの東口のまちづくりで、将来線路上空にデッキと国道横断デッキの接続によりまして、東口駅前広場が拡張されることになり、それにつれて、将来の主な歩行者動線概念図とありますが、その完成時期は、いつ頃になるのでしょうか。西口は JR さんのビルの建て替えの時期、2020 年に出来る予定になっているのですが、東口側は、東口のルミネさんのビルの建て替えの時が目安になる

のですよね。そうであれば東口は 20 年か 30 年に造るか分からないですけど、先日もちょっとした地震がありまして、いつ来るかもわからない大地震や津波に対して、地元ではかなり心配しているのです、南デッキと将来的には東急東横線の廃線跡が接続するようになっているのですけど、東口のデッキと一体となって接続するのか、その前に東横線跡地に自転車も通れるような遊歩道が早く出来れば、そんな心配する必要はないのですけど、東口の 20 年か 30 年に合わせて接続するようだと、いつ来るかもわからない大地震や津波に対しては心配なのです。私素人の考えでは、とりあえず東横線の跡地に何箇所か昇り降りできる入口を造り、鉄橋部分は今現在枕木があって、隙間が空いているので、その部分を何かカバーして、それから人が落ちてしまうと困るので、フェンスか何かをして、まずそこまで設置すれば、地震がいつきても緊急避難できる施設として、普段は閉鎖しておいても、いざとなったら、開錠して、緊急避難場所になると思うので、その程度で早く出来るのじゃないかと思います。

○副市長

ありがとうございます。歩行者デッキの、特に東口側の考え方ということでございますが、事務局の方で教えてください。

○事務局

お手元の資料の 9 ページを見ていただきたいのですが、エキサイト計画は基本的には、民間開発と連動させて、インフラ整備をしていくという事です。ステーションオアシス地区は、今ご指摘がありました、南デッキですとか、あるいは東急線の跡地利用ということで、このデッキについては、ステーションオアシス地区と連動させて整備をしていきたいという事で、次の 10 ページに中期的に取り組むというような中で、国道横断デッキと、線路上空南デッキ、それから東急東横線の跡地利用と盛り込んでありますので、一応中期的な計画の中でやっていくという事で、そんなに遠い将来の話ではないと考えております。是非ご協力お願いしたいと思います。

○齋藤委員

その遠い将来じゃないというなら、いつ頃の目安なのですかね。

○事務局

最初に配った資料 1 を見て頂き、一番下の方で、ステーションオアシス開発という中で、東口の駅前広場、それから国道 1 号交差点改良、それからデッキと、先ほどお話がありました国道から線路上空、と考えておりますので、そこに基本的に平成 28 年度の都市計画を目指す中で、平成 30 年代半ば（35 年頃）を目指して整備をしていきたいというふうに考えております。

○副市長

頑張ってやっていきますので、また引き続きご協力の方、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

○千原委員

西口振興協議会の千原でございます。本日も説明をお聞きしまして、これから横浜駅

西口周辺では、非常に具体的な、色んな動きが出てくるということを、改めて感じた次第です。その中で、西口振興協議会としまして、幾つかお願いがございます。まず 1 点目ですけれども、今後各事業計画推進する過程の中で、地域に重要な影響を与える可能性のある事柄につきましては、出来る限り早めに情報を開示していただき、地元の方々との意見交換を設けていただきますようお願いを申し上げます。それから 2 点目でございますが、駅前の安全面、環境面の対策についてです。資料にありますように、(仮称)横浜駅西口駅ビル計画を始め、これに関連する馬の背の解消事業や、また西口駅前広場の改修整備事業などが完成いたしますと、西口駅前が素晴らしい姿に生まれ変わると期待しております。しかしながら、一方でこれらの事業がどう進むのか、工事期間中の状況がどのようになるのかといったことがまだ具体的には示されていないわけです。つきましては、これらの工事期間中も、西口商業施設を利用される多くのお客様、あるいは来街者の皆様から敬遠されることのないように、関係者の皆様方には西口駅前周辺の安全面、環境面の対策に、万全を尽くしていただき、官民が連携して使い勝手のいい空間になるように取り組んでいただきたいと思います。

最後に 3 点目でございます。特区の活用についてです。資料にもありますけれども、JR 東日本様の西口駅ビル計画と並行して進めていくプロジェクトの一つに、横浜駅きた西口鶴屋地区の再開発事業というのがあります。これは西口振興協議会のメンバーの株式会社相鉄アーバンクリエイツが準備組合の事務局となっておりまして、今皆様と用途などの検討を進めているところです。この計画につきましては、先般、区域として指定された国家戦略特区を最大限に利用して、ハード面の規制緩和ですとか、手続きの簡素化などにより国際都市横浜の玄関口にふさわしい開発を 1 日でも早く実現することが望まれるところです。また、特区の活用というのは、鶴屋町再開発事業だけではなくて、今後の開発において、これまでの横浜駅周辺にない機能を盛り込むことを可能にすると思いますので、国内外から人が集まって国際都市に成長させ、そして、地域間競争に勝ち残っていけると考えておりますので、是非この特区の活用についての行政のご協力とご尽力を頂きたいと切望する次第です。どうぞよろしく願いいたします。

○副市長

ありがとうございます。

○事務局

まず、工事関係についてお答えします。基本的に、駅ビル計画も、これからの都市計画決定に向けてやっていくのですが、馬の背にしても駅前広場についても、基本計画ができましたので、詳細設計が進む中で、必要な情報については振興協議会ははじめ、地元地域の事業者の皆様積極的に情報を提供していきたいと考えています。それと、安全と環境は、大事な話ですので、今言った三者の事業者、これが連携して西口の事業者の皆様出来るだけご迷惑が掛からない形で計画を進めていきたいというふうに考えております。

特区については、私も同じ思いです。特区の活用については、最大限活用して参りたいというふうに思いますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。

○副市長

はい、ありがとうございます。

○中山（久）委員

今、お話がありました横浜きた西口鶴屋地区再開発準備組合の理事長の中山です。当地区の再開発事業について、日頃よりご協力をありがとうございます。私も国家戦略特区について、お伺ひいたします。私どもは都市計画提案に向けて、建物の用途を検討しております。その中に、国家戦略特区の中に区域会議で、区域計画を策定するというものが入っています。先ほど国主導であり、明確には分からないということなのですが、私どものタイミングもありますので、スピード感があるスケジュールを教えてくださいと思います。次に横浜市の独自提案の中に、国際的ビジネス拠点に向けた横浜市周辺のイノベーションの中で、民間ビルの建て替え事業のバックアップ策というものがあります。実は私どもも用途の中に住宅を検討しております。早期に目的を達成するために、環境評価条例、いわゆるアセスの手続きの緩和、附置義務駐車場台数の緩和も併せてお願ひしたいと思ひます。

私どもの再開発事業はエキサイト計画に十分寄与出来ると思ひています。昨今の建築費の高騰に伴って、公的な補助金はどうしても欠かせませんので、これまで以上の補助金の投入をお願ひしたいと思ひています。国家戦略特区は、安倍首相は岩盤規制を打破できると言っているのです。黒岩県知事は、非常に大きな力、県全体で、経済、エンジンを回したい、林市長は、飛躍に向けた大きなチャンスと、新聞には書いてあります。今のきた西口駅前広場は、広場と言える広さではありません。すごく狭いですし、広場を改良しても面積は広がりません。特区で、東京 9 区と神奈川県全域と、成田が選ばれました。多分今日も神奈川県からお見えになっていると思ひますけど、この面積を増やすには、鶴屋橋から東急の古い鉄橋が有りますが、その辺全体の河川の上に蓋を掛けて、広場の面積を拡大するしかないと思ひています。横浜駅の駅ビル計画が進行している中で是非横浜駅のために、きた西口も含めてご協力お願ひしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○副市長

はい、ありがとうございます。

○市（奥山）

ご質問ありがとうございます。まずスケジュール以外のところについてご説明します。今回の特区については、国の規制を緩和するというのももちろん大きな目標であるのですが、実は横浜市の中のルールとか規制で、時間が長くなってしまふというものが、色々あるのです。我々としては、そういう横浜市の中の規制についても、今回の特区に併せて緩和できるものについては、きちっと検討していきたいと思ひています。具体的には、今お話がありました、アセスもそうでありまして、今回の提案で

は、住宅容積もありますけども、中の業務専用ゾーンに容積を移転できるというような提案も入れてあるのです。そういうものを、開発時期が上手く合わなかった場合に、1 回そういう容積を銀行のようにプールしておこうという検討も入っていますので、そういういろいろな事を今後検討していきたいと思っています。更に皆さんの方で、こういうことをやったらどうかと、逆にお話がありましたら、是非私どもの方にお寄せいただければありがたいと思っております。それから、補助金の関係につきましては、再開発をする上でやはり欠かせない財源になると、我々もまちづくりをしてきて感じておりますので、今後計画が詰まってきた段階で、組合の皆さんと具体的にお話をさせていただくこととなりますので、その段階で十分調整させていただければと思っております。それから、きた西口につきましては、倉知会長からもかねてからお話をいただいております、我々としては、あそこにもう少し川の上を使って、ゆとりのあるきた西口の広場を造っていきたいというふうに思っております、現在これは市の中で検討を進めています。市の中である程度検討して、絵柄等ちゃんと整理が出来た段階で、今日ご参加いただいている神奈川県さんの河川サイドの方と具体的に協議をさせていただきたいと思っております、今まだ市の中で検討している最中ですので、もう少し時間をいただいて、26 年度には色々県の方とご相談をさせていただく、あるいは協議をさせていただくというステージに進めていきたいと思っております。それから、特区全体のスケジュールについてですが、都市整備局よりも、今日参加している政策局の桑波田の方がかなり詳しく情報を持っていますので、桑波田から補足説明をします。

○市（桑波田）

政策局の政策担当部長をしております桑波田と申します。国家戦略特区につきましては、先ほどもご指摘があったように、スピード感が一番大切ということで、基本的には 5 年間で事業管理を含めて、事業化を出来るような制度設計を色々やっていこうということで、先ほど奥山が申したように、国の規制緩和だけではないのです。市の規制緩和も含めて、出来るだけこの実状に合った形で対応させていきたいと思っております。そのための調整を、関係局と進めさせていただきたいと思っております。先ほどの区域会議なり、区域計画については、まだどういう形でやっていくかというのが、国の方で固まっておられませんので、その情報等が入りましたら、出来るだけ早期に調整をさせていただきます。いずれにしても、この 5 年間で勝負だと思っておりますので、皆様のご協力のもとに、進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○副市長

まだ詳細は決まっていないのだけど、その区域会議であるとか、区域指定であるとかというのは、それを 5 年掛けてやるわけではないですよ。

区域指定は、おそらくこの 1 年位が勝負になるのだろうと思うのだけど、そんな感じでいいのかな。ということなので、これから精力的に色々議論をさせていただきたいと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

○中山（久）委員

出来るだけ早い情報をお待ちしております。よろしくお願いします。

○副市長

ありがとうございます。神奈川県さんに対する期待の声が非常にたくさんございましたけれども、今まだ市のほうで色々検討しております。ですから、その結果も踏まえた上で色々ご相談をさせていただきたいと思っておりますが、今の時点でもし県さんの方で何かございましたら、いかがですか。

○志村委員

神奈川県でございます。一般論で申し上げれば、河川に蓋を掛けるということにつきましては、治水上色々な支障ですとか、日常の維持管理でどうしてもやりにくさが発生すること、あるいはこのエキサイトよこはまの計画の中でも、水辺空間というものも上手く取り込んで、いいまちづくりをしていこうというようなお考えがあるというふうに承知しておりますので、なかなか難しいハードルの高い事であるというふうに考えております。ただ、私ども、ご相談の窓口、門戸をまるっきり閉めているということはありませんので、いろんな場面場面でご相談をいただいたらよろしいと思っております。

○副市長

ありがとうございます。是非これから相談を具体的にさせていただきますので、よろしくお願いします。

○野並委員

昨年、大変素晴らしいイベントが行われて、「駅まつり」というものですが、これは横浜駅東西の商業関係の会社 19 社と鉄道 6 社が一体となって、開催したイベントなのですが、これはやはり東京に対する都市間の格差という危機感が背景にあってかなと思うのですが、大変すばらしい企画だったと思っています。やはりこういう東西一体となった進め方というのは、このエキサイトにおいても非常に大事になってこようかと思えますし、特にこれからエリアマネジメント、財源確保の話も出てきましたけども、そういった面においても、特にこの辺の考え方というのが非常に重要になってくると思えますので、是非皆様の協力により、一体となった方法でエリアマネジメントを進めていただきたいと思います。以上意見でございます。

○副市長

ありがとうございます。まさに、エリマネは協働共創ということで、エキサイトの 7 つの戦略の一つでございます。是非一緒に取り組んでいきたいと思えます。

○濱名委員

東急電鉄です。横浜の西口の駅ビルにつきましては、JR さんが事業主体という事で、早期に進めていくことで、先程もご説明があった通りですけれども、東急電鉄としましては、歩行者ネットワークの整備ですとか、鶴屋地区における再開発構想を通して、エキサイトの計画に貢献をしてまいりたいと思っている所です。今歩行者ネットワー

クという話をさせていただきましたけども、やはり回遊性を向上させるというのは、まちの力を上げるために非常に必要なインフラだと理解をしております、ただ既存でも、例えば南北の連絡通路ですとか、地下にもありますので、そういったところの賑わいを創出するような工夫をこれから是非お願いを出来ればと思っている所です。

○副市長

はい、ありがとうございます。

○小倉委員

京浜急行でございます。先ほど少しずつ話題が出ておりました、今回の南デッキについてです。やはり、横浜駅付近が非常に向上いたしますので、是非その段差の問題や、計画そのものの位置関係等の課題について、横浜市さんに色々な検討を進めていただきたいと思っております。それから、私共としては、やはり横浜駅全体を考えますと、ステーションオアシス計画も是非進めていただきたいと考えております。横浜駅は、当社全駅の中で一番乗降人員が多い駅であり、全国でも有数の横浜駅ですので、是非取組みの推進をお願いをしたいと思います。

○副市長

はい、ありがとうございます。

○中山（博）委員

中山でございます。こういうふうエキサイトよこはまという、一つの駅を中心にした大きなエリアで、こういう都市計画をはじめとするインフラ、あるいはまちづくり、あるいは賑わい、環境、災害、こういうことを考えてきたという事は、大変素晴らしい事だったと考えております。一つの目的として、ここで決めるということももちろん必要なのですが、基本的なものはしっかりと押さえて、それをどんどん次から次へとバトンタッチをして、より良い物に作り上げていくということもまた、必要ではないかと思えます。過去、横浜駅は、何回も移転を繰り返してきました。繰り返してきて今現在があるわけですが、繰り返してきただけに、色々とその場しのぎのやり方で来てしまったのではないかという考えもございます。ですから、河川にしても、ご存知のように平沼も全部海であったころ、横浜駅はあそこに出来ていたのですね。ですから、その水をどうするのだということになりまして、埋めて行ったら、運河が出来たと。運河の水が非常に効率よく流れるようになったのですが、邪魔だから埋めてしまおうということになったと。そういうことでなく、例えば地下に高さ 5m、あるいは 10m、横幅が 30m なんて雨水施設を作っても、運河の何メートルになります。それも、猛烈な資金を掛けなければならない。そこに雨水を貯めても、ポンプアップという非常にエネルギーを使わなければいけない。ですから、なるべく自然を壊さないように、流れる水を止めないようにしながら、やっていかなければならないのは、今ここに住んでいる我々が考えていかなければならない。また、横浜駅は 100 万人以上の乗降客がある駅で、一番最後までエレベーターがない駅でした。エスカレーターもなかった。現在でも夜の 10 時過ぎにエスカレーターは止まっています。自分で本当

に使ってみないとわからない。例えば私は西口なのですが、東口まで出かけて行ったところ、バスターミナルに行くのにエレベーターがなかったのです。ですから、荷物を持っていても、階段を上がらなければいけない。ビルの中にエレベーターがあるとはいえ、あれはエレベーターを降りたところからは、バスターミナルに行かれない。そこには鎖がついていて、鍵がかかっている。今もこの資料の中に色んなことが入っている。例えば、JR さんの新しい図面の中で、大変高いアトリウムを作る。素晴らしいです。アトリウムを作って、スリットは 3m です。環境的には今までの高さよりはよほどいいです。今の日本の国土で、高度利用化しなければいけないというのもわかります。高度利用化するという事は、下のエリアの広場を増やすということです。例えば今の計画のアトリウムの幅は 19m です。しかしエスカレーター 2 台分を引いて考えてください。さらに、元々の自由通路には、花屋も案内所もなければ、飯屋もパン屋もなかった。いつの間にみんな出来た。今の駅の自由通路に、どのぐらい店舗が増えたか。ですから、こういうところで話して、こういうようなものが出来ますから、いいでしょうという話をしたら、ちゃんと守りましょう。空いているところをどこでも使うなんていうのは、やめましょう。そういうことを横浜の中心でやってしまったら、横浜自体の魅力もなくなるし、周辺にも影響を及ぼします。

今一番私が心配なことは、先般の大震災で、根底からエキサイトよこはま、考え直さなければいけないと思いました。妥協点として、TP3.1 とかございます。それでも、出島の辺りから水が入ったら、一気に横浜駅はやられます。ですから、小林先生もずっと言い続けておられますが、横浜市さんがいう南デッキというのは、災害対策に非常に重要な通路です。それがないと、ホームから地下へ逃げるしかないので、早急に考えていただきたい。それから、この前、川の中で浮き輪を投げてもらって、どのぐらいで届きますかという、何人か参加してやったのですが、私が提唱しているように、たとえ 30m おきでも 50m おきでも綱をつけた浮き輪を置いておきましょう。そういうふうにしなないと、昔の運河と違って石垣ではありませんから、落ちたらどこもよじ登れない。ましてや階段もない。この前の 2010 年の川があふれた時もそうなのです。消防車は来られません。地震があつたらどうでしょう。来られません。火災になったらどうしましょう。水道は止まります。電気も止まります。運河というものは、火災に対して非常に強い威力を発揮しますので、川の水をくみあげて、防火に使えるとかそういうものを作っていくのが、エリアマネジメントの危険災害に対する大変必要な事です。

こういうことを一つ一つこれだけの皆様が考えていることは大変この会議は有意義だと考えております。

○副市長

ありがとうございました。

○大屋委員

県の河川の方がみえているので、先日帷子川についての意見というのを outsizing していた

だいたのですけども、それを準備組合に回答が来るようになるのか、お聞きしたいのです。

○志村委員

神奈川県でございます。今のお話は、帷子川の河川整備計画というものを、河川法に基づいて策定していくにあたって、いわゆるパブリックコメントで出していただいたことだと思います。その中でご意見を頂戴したことについてですが、それは手続き論から言えば、今後そういったご意見を踏まえて、最終的な河川整備計画をまとめていく時に、その計画にいただいたご意見、こんなふうには反映致しました、あるいは、こんなふうに参加にさせていただきましたという区分に応じて公表させていただくというのが、手続き論でのことですが、先般ご意見を頂戴しましたので、そこについてはまた事務レベルで個別の対応も検討させていただきたいと思っております。

○副市長

ありがとうございます。

○宮崎委員

日本郵政でございます。今回の資料を拝見しますと、東口の方で、西口再開発から連動して南デッキの計画をいよいよ詰めていこうとか、b 東口のまちづくりという市作成の図面では、国道 1 号の交差点の改良だとか、支線 1 号も、ぼんやりした表現から、実線に変わっていたり、20 ページには、レベル関係の断面イメージ図等々が載っているなど、だいぶ横浜市さんのインフラに関する検討が進み、これからやっていくぞという決意がこもっているように感じました。ステーションオアシス地区の地権者としては、この計画に関連して今年度は十分に横浜市さんをはじめ、関係者の皆様と協調して検討を進めさせていただきたいと思っております。

○副市長

ありがとうございます。本当は全員の方々からご意見をいただきたいのですが、時間があまりなくなってしまいました。総括として、5 名の方に一言ずつお願いをしたいので、よろしくお願ひします。まず、コーディネーターの石垣さん、お願ひします。

○石垣氏 (UR)

コーディネーターの都市再生機構でございます。当地区の整備の特徴として、やはり色々な基盤整備があつて、街区開発がありまして、それが相互に関連、連携づけながら整備を行っていくということになろうかと思うのですけども、私どもも色々な都市開発を見ている中で、非常に特殊な事業の経過をもっているというふうに感じております。そういった中で、それぞれの街区、あるいは公共と民間の事業が上手く連携を取ってやっていくためには、こういった懇談会を始めとした、コミュニケーションと申しますか、一つの非常に大事な取組みと思っております。私ども、コーディネーターとして、これまで以上にそういった一つの目標の共有については、尽力して参りたいと、横浜市さんと共に努力していきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

○副市長

ありがとうございます。引き続きよろしく申し上げます。それでは、日大の岸井先生、よろしく申し上げます。

○岸井委員

私も基盤整備の方の検討をお預かりしておりますので、今日頂戴したご意見については、今後更に検討を深めて、使わせていただこうと思いました。今はその立場ではなくて全体に渡る戦略としての意見を申し上げたいと思うのです、せっかく今日は多くの方がお集まりでございますから。エキサイト 22 は、どういうことを考えなければいけないかという事です。一つは、やはり 2020 年のオリンピック、パラリンピックの時です。世界のメディアがやってまいりますし、その 3 年ほど前から多分観光客が増えてくると思います。その時に、一体このエキサイト 22 はどういう状態になっていると、皆さん考えていくか。そこで何をするのかということについて、やはり戦略的に考えなければいけないと思うのです。世界に横浜を売る、よりいいチャンスだと思いますので、そこについて、ここにお集まりの方々全員で力を合わせた何か、この地区全体のことをアピールすることが必要ではないかと思えます。2 つ目は、国家戦略特区の話がずいぶん出ておりましたが、9 月に市がお作りになった素案のエリアは、狭すぎると思えます。もっと大胆にお使いになればいいのにと。都心の検討もされていच्छるようですので、羽田空港の国際化も受けて、海沿いの地域は非常に実はポテンシャルがあるのだということ、強く海外の企業にも訴える、これもまたいいチャンスだと思いますので、これはおそらく市の方が主導役になるのだと思えますけども、是非大胆に使っていただけたらいいと思っています。

○副市長

ありがとうございます。都市大学の小林先生、よろしく申し上げます。

○小林委員

私の方からは 2 点ほどお話をさせていただきます。1 点は、国家戦略特区に絡んででございますが、国家戦略特区と並んで、非常に紛らわしいのですが、国際戦略総合特区というのがありまして、横浜市もその指定を受けています。大阪市も特区の指定があって、その区域会議に参加しています。その区域会議が今年の 4 月に開かれまして、そこで私が大阪のエリアマネジメント条例、財源を確保する BID 条例が必要だということ、民間のサイド、特に阪急・阪神の COE の角さんが手を上げて、民間の負担になる事だけど、是非やりたいという意思表示をされて、橋下市長もそれではやりたいということになったのが、昨年 4 月です。その議論が始まって、今年の 2 月に市議会を通して、全国初の条例づくりを大阪市が行った。非常にスピード感をもってですね、こういう制度づくりが行われています。是非、横浜市も先ほどの岸井先生のお話ではありませんが、2020 年ということを見ると、かなりスピード感をもって色んなことを進めていかなければいけない。そういうことを 1 点指摘させていただきます。それと絡んで、エリアマネジメントの話がたくさん出てきて、非常に

ありがたいと思っております、それに関する的確な資料が出来ていると思います。全国でエリマネ活動が動いておりまして、全国のエリマネ活動の動きをみると、必ず地区ごとに代表する民間企業の方々が頑張っておられるんですね。例えば福岡の天神エリアでは西鉄です。それから博多エリアでは JR 西日本、大阪駅エリアでは阪急・阪神を中心とし、あと竹中工務店などです。名古屋は、トヨタ自動車の不動産部門の東和不動産と名鉄。このように考えてみると、やはりしっかりとした民間企業が、エリアマネジメントを背負って立つということを意思表示して、市がやる前に積極的に、そういう組織は動いております。是非そういうスタンスを横浜市でも、民間の方に取っていただきたい、ということをお願いしておきたいと思っております。

○副市長

ありがとうございました。引き続き、また先生方のご指導をよろしくお願ひしたいと思ひます。続きまして、本懇談会の副座長をお願いしております西口振興協議会の鳥居会長、お願ひします。

○鳥居委員

横浜駅西口振興協議会鳥居でございます。まず初めに、横浜市さんにおかれましては、日頃より横浜駅周辺のまちづくりに対しまして、多大なるご支援を賜りますことをこの場で厚くお礼を申したいと思ひます。今日の懇談会の説明もありましたけれども、まず感想かもしれませんが、JR さんの方の、横浜駅西口駅ビルの工事に関連しまして、地下街との連絡工事、また駅前広場の改修工事と書いてあります。さらに、鶴屋橋架け替え工事もありまして、これらすべて横浜駅周辺の事業環境を大きく変える事業が準備中、あるいは推進されているというふうに感じてございます。従いまして、こういった事業が一日でも早く竣工することを、私は期待するところです。さて皆様、既にご案内の通り、駅周辺におきましては、様々な問題があるわけですね。例えば歩行者と車の未分離とか、河川の治水問題、広場、公共空間の不足、バリアフリーとは程遠いような歩行者動線といった問題がありまして、こういった問題は、民間ではなかなかすぐに解決できない課題があるわけですね。一方で横浜駅周辺に関しましては、特に商業空間ですけれども、たとえば川崎とか、新宿、渋谷、銀座等でも、熾烈な競争関係があるわけですね。こういったある面では古いインフラ部分ですと、お客様に対しまして、忌避されるような可能性があるかと、私は心配するわけですね。従いまして、こういった部分に対しましては、横浜駅周辺の商業的地盤沈下を防ぐためにも、横浜経済の地盤沈下につながらないためにも、こういった既存の部分の改修、改変の方法を、是非とも、力を入れる必要があると思う次第です。そこで、現在進行中の事業推進案を基に、横浜駅周辺の魅力を高めるための、新たな施策の方法を考えていくよう、すぐさま実行する事、また今後のインフラ整備の推進に対しまして、具体的な支援となるような様々な制度を新設、ないしは拡充が必要ではないかと、私は思っている次第です。例えば、先ほどの話でもありましたけれども、アベノミクスの国家戦略特区ですが、この制度の最大の活用はもう当たり前のことで、更に既存市街地の再開発に対

しましても、行政にしか成し得ないような、ある面で大胆な規制緩和、また開発に掛かる税制面での優遇措置等をその制度化により、民間では対応できないようなインフラ整備を積極的に推進いただけるよう、お願いするところです。特に事業性の確保が困難な再開発事業に対しては、まずは民間開発を推進しやすい環境を整えるのが大事ですので、これを切にお願いする訳です。大変虫のよい話ばかりいたしましたけども、こういった部分の新規の開発物件、それと既存物件の改修、改変等、両方の面でもって進めないと、横浜も周辺に対しまして、段々と陳腐化すると心配するところです。是非とも両方の面でもってのご支援をよろしくお願いするところです。

○副市長

ありがとうございます。是非一緒になって、知恵を出し合いながら頑張っていきたいと思えます。よろしく申し上げます。それでは、東口振興協議会会長の小谷様、よろしく申し上げます。

○小谷委員

只今ご紹介にあずかりました、東口の小谷です。どうぞよろしくお願いいたします。本日は横浜駅周辺の開発状況についてご説明をいただきました。ありがとうございます。西口さんは、東口に比べて歴史的にも規模の面においても相当先輩でございますので、東口としても、西口に倣って色々と策を作っているわけですが、今後の取組みとしまして、主な基盤整備事業に関する東口の基本構想が今日正式に、我々も初めて聞く話もありましたけれども、大体は大いに期待を寄せておるところです。横浜市さんの他、関係者の皆様に感謝申し上げる次第ですが、この東口構想のうち、駅前広場、南デッキ、それから栄本町線の支線 1 号線の整備事業、平成 28 年度の都市計画決定を目指すという段階まで来ております。これにつきましても、来街者の利便性や、回遊性の向上はもちろんのことですけれども、地域の声にも耳を傾けていただきまして、賑わいの創出といいますか、そういうまちづくり計画にしていきたいと思います、そのように念願するものです。また、横浜駅周辺の発展のためには、駅の東西はもちろんのこと、来街者の増加が続いているみなとみらい地区との結びつきが重要と思っております。その点ではこの東口の重要性がますます高まってくると、そのようにも考えております。横浜市さんをはじめとする、行政関係の皆様方、それからまた今日色々ご発言されました地元の関係の皆様方、また我々民間の業者と官民一体となりまして、このプロジェクト、本当にスピード感を持って、進めて行っていただきたい。また、進めていきたいと考えております。国際都市の玄関口にふさわしい魅力的な横浜のまちづくりが進みますように、是非よろしくお願いいたします。

○副市長

どうもありがとうございました。本日は皆様方から本当に貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後のエキサイトの推進にあたっての参考とさせていただきます。今後とも是非よろしくお願いいたします。最後になりますけども、都市整備局長平原から、本日の懇談会の全体総括をさせていただきます。

○市（平原）

都市整備局長の平原です。大変長時間に渡りまして、熱心なご議論をいただきまして、本当にありがとうございました。委員の方々、本当に大所高所からのご意見、それから関係者の皆様もこれだけ多くお集まりいただきまして、本当に熱気が伝わってくる思いです。昨年、私はこの懇談会の場で、25 年度は是非ダイナミックな動きと具体的な動きを作りたいのだというふうなお話をさせていただいたと思います。具体的な動きとしては、JR さんの駅ビル、それからオアシスの計画もようやく検討に入ったということで、具体的な動きが出てまいりました。であるからこそ、地域の皆様からは切実な問題認識ということが、色々出てきたと思っております。こういった具体的な動きを、よりダイナミックな動きにしていきたいと思っております。幸いなことにオリンピックですとか、国家戦略特区ですとか、あるいは羽田空港の国際化ということも、大きな追い風が吹いているわけです。小さな芽を、追い風を受けながら、どんどん大きなまちづくりに発展させていきたいと思っております。今日はエリアマネジメントのお話もさせていただきました。地元の皆様と一緒に盛り上がりながら、東西一体となりまして、まちづくりもしていきたいと思っております。いずれにしても横浜駅周辺は、横浜都心部の中核をなすところで、色んな意味で複雑なエリアですけれども、是非そういった複雑なエリアのまちづくりのモデルとなるように、横浜市としても一生懸命取り組んでいきたいと思っております。引き続きご協力とご支援をいただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○市（奥山）

以上で本日の議事は全て終了いたしました。本日いただいた貴重なご意見につきましては、これを参考にして、我々、26 年度取り組んでいきたいので、また絶大なるご協力をお願いいたします。それから、本日の議事要旨につきましては、公表させていただきます。事務局で取りまとめた後、委員の皆様には事前にご確認をいたしますので、その節には、あらためてご協力をお願いいたします。これにて閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。